

(社) 東洋音楽学会 西日本支部だより

Newsletter of the West Japan Chapter, Society for Research in Asiatic Music

第71号 (2012年2月15日)

定例研究会のご案内

東洋音楽学会西日本支部第255回定例研究会

日 時：2012年3月11日 (日) 午後1時半～5時

場 所：国立民族学博物館 第3セミナー室

大阪モノレール「公園東口」駅から徒歩約15分

※「万博記念公園」駅から自然文化園を通過するルートだと、
250円 (小中学生70円) の入園料が別途必要となります。

例会担当：寺田 吉孝 (国立民族学博物館)

《研究発表》

死者を送る「うた」の表象とその技法
——中国雲南省徳宏タイ族のシャマニズムの事例
伊藤 悟 (総合研究大学院大学)

《研究講演》

"Music of The Toba Batak People of North Sumatra: Concept, Aesthetic and Performance Practices" (北スマトラ、トバ・バタックの音楽——その概念、美学、演奏慣習をめぐって)
Rithaony Hutajulu (University of North Sumatra)
リタオニ・フタジュール (北スマトラ大学)
※フタジュールさんの発表は英語によるもので、通訳はありません。

* * * * *

定例研究会の記録

東洋音楽学会西日本支部第254回定例研究会（人間文化研究機構 連携研究「映像による芸能の民族誌の人間文化資源的活用」と合同開催）

日 時：2011年10月30日（日） 午後1時半～5時半

場 所：国立民族学博物館 第3セミナー室

例会担当：寺田 吉孝（国立民族学博物館）

《舞踊の伝承と映像記録》

概要説明「インドネシア・ジャワ島インドラマユの仮面舞踊とその伝承状況について」

福岡まどか（大阪大学）

映像発表「Mimi Rasinah」

（インドラマユの仮面舞踊手ラシナのドキュメンタリー映像）

古屋均（写真家・フォトジャーナリスト）

〈報告〉

本定例研究会は、インドネシア、ジャワ島西部のインドラマユ地方の仮面舞踊家で故ミミ・ラシナ Mimi Rasinah 氏（2010年没）のドキュメンタリー映像作成した写真家、フォトジャーナリストの古谷均氏の映像作品「Mimi Rasinah」の上演とその作品に関する質疑応答を中心に行われた。また上演に先立ち、福岡まどか氏により「ジャワ島・インドラマユ地方の仮面舞踊とその伝承状況について」と題する発表が30分程度で行われ、上演内容の仮面舞踊について、わかりやすい解説が加えられた。この発表のおかげで、参加者は映像作品の内容を深く理解できたことはいうまでもない。また上演前には、古谷氏自身により、映像作品制作の動機や背景、作成方法、作品の解説が行われた。

福岡氏の発表は、単にインドラマユの仮面舞踊の概説にとどまらず、研究者が現地の芸能の伝承にどのような役割を果たすかという点に着目した。なぜならば、ラシナ氏（2010年没）は、1980年代に研究者

に「発見」された舞踊家であり、64歳で踊り手としてのキャリアを再開し、その後、インドネシア人の研究者や海外の研究者の協力を得ながら、「わざの継承」を行ってきた舞踊家であるからである。研究者は、映像・録音・楽譜などの形で記録やエスノグラフィーの作成、あるいは現地での継承に関わる諸活動を行うことが可能である。実際、インドネシアの研究者はさまざまな形で、芸術家を探し、支援し、後継者育成に関わるさまざまなプログラムを実施している。映像作品もまた、こうした「わざの伝承」に大きな役割を果たすことが指摘された。

古谷氏は研究者ではない。たまたまインドラマユを旅したことから仮面舞踊に興味を持ち、現地の研究者（エンド・スアング Endo Suanda氏）の協力のもと、ジャワ芸能研究者・資料収集家（アレックス・ディア Alex Dea氏）とともに映像作品を制作している。しかし、結果的にこの作品が研究者と協力して制作されている点で、非常に学術的な内容と意味をもつ映像作品に仕上がっている。

この作品の特徴は、インデックス方式をとっている点である。映像作品といった場合、「時系列的に編集された一つの作品」として制作されることが多く、またそこには「作家の意図」が強く反映されるが、この作品は、三つのインデックス（インドラマユの概観、ラシナ氏へのインタビュー、仮面舞踊三作品の上演）に分かれており、どこからでも見るようになるようになっている。パソコンで映像を見ることが一般的になってきた今、こうしたインデックス方式は、観る側に選択肢を提供する点で、今後の映像作品のあり方として注目すべきである。

またインタビュー部分は、現地の研究者が行っていることから、外国人では踏み込みにくいような門付けや、公演の謝礼などについての質問までが行われている。さらにスアング氏のインタビューでは、世代間継承について質問を行っており、映像作品のタイトルは、舞踊家のミミ・ラシナであるが、一人に焦点を当てたものではない。

本映像作品は、研究者にとっては学術的にも価値が高く、現地の人々にとっても、仮面舞踊を知る、学ぶ上で重要な資料といえる。ただこれを「商品」とする場合には、本来、そうした目的で制作したものではないことから、著作権など解決しなければならない問題が多い。しかしフロアからは、商品化とは別に現地において作品の上映会を行うことで、

仮面舞踊の継承に寄与できるのではないかなどの意見も出た。
(梅田 英春 記)

* * * * *

■入会申し込み・住所変更について

(社) 東洋音楽学会への入会をご希望の方は、80円切手を同封し、下記の学会事務所へ入会案内・申込用紙をご請求ください。申込用紙は、ホームページからもダウンロードできます。会員の異動や住所変更等についても、下記の学会事務所へお知らせください (申し出先は支部事務局ではありませんのでご注意ください)。

社団法人 東洋音楽学会 学会事務所
〒110-0005 東京都台東区上野3-6-3 三春ビル307号室
TEL 03-3832-5152 FAX 03-3832-5152
ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/tog>

■研究発表の募集

西日本支部定例研究会での研究発表を希望される方は、発表種別（研究発表・報告等）、発表題目、要旨（800字以内）、氏名、所属機関、連絡先（住所、電話、FAX、E-mail）を明記の上、下記の西日本支部事務局までお申し込みください。

(社) 東洋音楽学会 西日本支部事務局
〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1-2-1
神戸大学国際文化学研究科 寺内研究室気付
TEL 078-803-7454 E-mail naokotk@kobe-u.ac.jp

支部だより 第71号

発行：(社) 東洋音楽学会 西日本支部 編集担当：今田健太郎・志村哲
〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1-2-1
神戸大学国際文化学研究科 寺内研究室気付
TEL：078-803-7454 E-mail：naokotk@kobe-u.ac.jp